キャラクター名
霜夜 葉桐(しもや はきり)

プレイヤー名

シンドローム	バロール バロール	ワークス	UGNチルドレンC	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢	19	性別	男
覚醒	死	衝動	殺戮	初期侵食率	36 %
出自	親戚と疎遠	経験	古強者	邂逅	自身

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	0	0	0		1	1
感覚	2	0	0			2
精神	4	1	0	1		6
社会	2	0	0			2

HP	28
行動値	10
(非装備時)	10
戦闘移動	15
全力移動	30

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			ＲＣ	2		交渉		
回避	1		知覚			意志	1		調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
コネ:情報屋	
コネ:ハッカー	
思い出の一品	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
市園ゆとり	P 連帯感	N 隔意		
七瀬結	P 有為	N 不信感		
	P 好奇心	N 無関心		
	P 信頼	N 食傷		
	P 有為	N 不信感		
	P 懐旧	N 無関心		
申し子(セレクティッド)	P	N		

最大財産P: 4	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
コンセントレイト:バロール	2	2	メジャー					
効果：	C値-LV(下限値7)							
時の棺	1	10	オート	視界	単体	自動	100%	
効果：	1シナリオ1回迄 ダメ判定直前使用 相手の判定を失敗							
死神の瞳	7	3	メジャー	視界	単体	対決		
効果：	命中した場合対象への次のダメージ+[LV+2]D シーン終了or効果適用迄持続							
ダークマター	5	2	マイナー	至近	自身	自動		
効果：	メイン判定ダイス+LV							
セットバック	1	2	オート	至近	自身	自動		
効果：	バッドステを受けた直後に使用 重圧でも使用可 暴走以外をLv個回復 1ラウンド1回まで							
ランナウト	2	6	オート	至近	自身	自動	D	
効果：	エフェクト使用時LV+2 1シナリオLV回							
悪魔の影	1	5	メジャー	視界	単体	対決	80%	
効果：	命中成功時、対象は次に受ける攻撃にリアクションできない							
ディメンジョンゲート	★	3	メジャー	至近	参照	自動		
効果：	自分の知っている場所を繋ぐ限定的どこでもドア							
ポケットディメンジョン	★							
効果：	好きな場所に好きな広さの空間を作る							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

霜夜 葉桐(しもや はきり)
男性 19歳 178cm
CN:蒼い目の人(トーデス・フルーフ) … トート(死) フルーフ(呪い)
コンセプト:味方に敵を殺させる遠方支援・妨害系自動蛮族製造機関

約20年前、当時妊娠9ヶ月の胎児であった彼は暴走したジャームにより身重の母親、そして父と共に殺害される。
多分に不審な点はあったものの刑事事件として処理された為に、母親は司法解剖を受けることとなる。
司法解剖中に彼は体外へ取り出され、その瞬間オーヴァードとして目覚めると同時に息を吹き返した。

一家が死亡し司法解剖を受けたことは親戚の多くが知るところであり、不可解な事件の生還児は奇跡として喜ぶ者より不気味がる者の方が多かった。
元より少ない引き取り手も「子どもの周囲に黒い球体が浮いている」「目が光った」等と口にして、短い期間中に親戚中をたらい回しにされることとなる。
3歳を過ぎた頃、ふと一人で表に出てしまった葉桐は大きな音のする方へと目を向ける。
軽自動車でも、急ブレーキをかけていようとも、彼を殺すには十分の大きさで、速度だった。
瞬き一つの出来事だった。
自動車は十数メートル先で停止した。衝突音も衝撃もなかった。
近所の住民たちが視線を戻せば、小さな彼はブレーキ痕の傍らに立っていた。
瞳は青く輝いて、周囲には黒い球体が浮かんでいる。
助かる見込みはなかった。その場にいる誰もが彼が宙を舞う光景を想像した。
彼らは見てしまった。その球体を、目を、そして無理矢理歪まされたようなタイヤの跡を。
その場に立つ彼は異端児であった。

その後、この事件を聞きつけ彼の出生を知ったUGNの前身組織は彼の身元を引き取り、以降霜夜葉桐は組織の管理する施設で育つこととなる。